

タイトル：7-④ 「笑い」は「かいほう」だ！！

勤め先：熊本市立出水南小学校

名前：村上浩一

□□□□□□□□□□□□□□□□

これは、私が新規採用以来、肝に銘じている言葉である。言い換えれば「愛想がいい」ということでもある。愛想がいい店員のいる店には入りたいが、そうでない店には入りたくないものだ。子どもたちも、学級担任に対して、そう思っている子が多いのではなからうか。

さて、この「にこにこ」は学級経営の柱であったし、学級便りの名称でもあった。にこにこしている顔が存在するということは、それだけで学級が楽しく、皆が和気あいあいと学習に、生活に励んでいる証となるのではなからうか。

□担任自身がにこにこしていると、こちらが黙っていても、子どもたちの方から寄ってくるし、話しかけてくる。逆ににこにこしていない時は、近寄ってもこない。にこにこしているということは、すでに子どもたちと無言の会話を行っていることになるのかもしれない。つまり、にこにこしているとい

うことは、何でも話す雰囲気づくりと
いうことに繋がっていく。□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□担任が笑顔でいると子どもが寄ってくる
ということは、担任が子どもに対して
門戸を「開放」しているということ
である。「さあ、どうぞ！」と。子ども
も同士でもそうである。笑顔を振る舞
っている子やユーモアのある子、笑い
を巻き起こす子どもの周囲には、子ども
たちが自然に群がっているのを見ても
頷けるだろう。

授業中にギャグを言ったり、ユーモア
ある応答をしたりしていると、まず
子どもたちの顔が緩む。そこから、子ども
たちの個性ある意見を引き出すことが
できる。固定観念を打破したような
意見、日頃あまり発言をしない子の
貴重な意見、やんちゃな子の奇想天外
な意見等々が出されたりする。これは、
子どもたちの緊張を解いて、自分の個性
を、そして自由な発言を引き出す「解放」
に繋がっていく。

こんな笑いやユーモア、笑顔のある

授業では、難しい課題に対しても、皆

で解決していくという「解法」の糸口
にも繋がっていく。暗い顔では、解ける
問題も解けなくなっていくような場合
もよくあるものだ。例えば、説教した
後などである。こんな後にもすぐ笑顔
をつくれる教師でありたいものだ。
□その一方、笑いのあるクラスだと、
第一、元気がいいものである。元気の
いい挨拶に笑い声、これらがあると、
少々風邪をひいた位では休まないし、
引いたとしてもすぐ「快方」にも向かう
ようだ。

又、学校が楽しければ、帰宅してからは、
保護者に今日一日のことを話して聞かせる
子どもが増える。保護者は子どもたちの
うれしいうれしい知らせ、「快報」を待つ
ておられる。悲しい話は聞きたくないし、
子どもたちも聞かせたくないだろう。
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□このように、笑いは子どもたちにと
って、様々な「かいほう」へ導くものだ
と考える。なお、笑いの一つ、「嘲笑」は
論外であることはもちろんである。
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□